



科学教育に根ざした地球規模のロボット競技会

ファースト・レゴ・リーグ ジャパンオープン 2008

FIRST LEGO
League
Japan Open

2009年2月14～15日、NPO法人・青少年科学技術振興会などの主催による「FIRST LEGO League ジャパンオープン 2008」が日本科学未来館で開催された。FIRST LEGO League (以下、FLL) とは NPO 法人 FIRST と Lego 社によって設立された国際的な科学教育のプログラムで、アメリカでは 1998 年から、日本では 2004 年から活動を行っている。多くのボランティア・スタッフによって大会が運営されている点にも注目である。

FLL は 9～15 歳 (ヨーロッパでは 10～16 歳) の小中学生であれば、誰でも参加できる。1 チームあたり構成は 3～10 名の選手と、大人のコーチ 1 名。FLL に参加する国と選手の数なんと 42 カ国で 10 万 5000 人以上とのことで、世界最大規模のロボット競技会といえる。

日本国内では合計 125 チームが地区大会に参加。それを勝ち抜いた 34 チームが本大会に出場した。

まつばら たくや
松原 拓也 / (有) ニコ

プレゼンテーションの審査も

FLL は科学教育に価値を置き、ロボット競技だけではなく、チームによる「プレゼンテーション (発表)」も行われる。プレゼンテーションは全部で 3 種類あり、特

定の基準で採点される。ちなみにプレゼンテーションの相手は審査員のみで、他チームや一般には公開されない。

今回 (2008 年度) の FLL のテーマは「Climate Connections」。気候と科学の関連性を考えることが主題となっている。

大会のテーマは毎年 9 月に発表されるので、チームの活動期間は、地区大会まで 2～3 ヶ月、全国大会まで含めると 5 ヶ月間にも及ぶ。FLL には選手たちの並々ならぬエネルギーが費やされているわけである。

チームワークプレゼンテーション

ここでは自分たちのチームについて 5 分間で発表をしていく。

発表方法としては、大きな紙を広げたり、パソコン (パワーポイント) をプロジェクターで投影したりと様々な工夫が見られた。セリフを完全に暗記しているチームのほか、芝居形式になっているチームや、歌やダンスを披露するチームなどもあった。

発表内容は主にチームのメンバー構成や活動内容についてだが、そこには選手の「協力」や「情熱」のアピールが含まれていた。

愛媛県 (四国地区) から参加した「幕の内弁当 850 円」チーム。



テクニカルプレゼンテーション

ここでは競技で使用するロボットを 5 分間で発表していく。発表内容は「どういう戦略でミッションをクリアするのか」「ロボットはどういう構造か」「どうプログラミングしたのか」など。製作したロボットを手に持ち、実際の動きを交えて説明を行う。

「戦略」とは、ミッションをクリアするために立てる計画のことで、複雑に入り組んだ FLL の競技では特に重要なものとなっている。その計画が十分に発揮できるかどうか……? 本番での動きも気になるところだ (ミッションの詳細い内容については次のページを参照のこと)。

関東地区から参加の「チームマイナス 6%」チーム。
写真は堤防ブロックの置き方を説明している様子。

